



公益社団法人芦屋市シルバー人材センター

はつらつ 芦屋

2017・1 No.23



ホームページアドレス <http://www.sjc.ne.jp/ashiya/>

青空に映えるロウバイ 陽光町の総合公園で
撮影 笹部 成雄(会員番号873)

芦屋市シルバー

検索

TEL 0797-32-1414 FAX0797-31-9223

インターからの情報発信!!

全国の話題に 芦屋市ふるさと納税

2008年、ふるさと納税が始まって以来、各自治体は地元物産を中心に、お礼品に知恵を絞って集税に力を入れています。

地方の産業衰退、人口減などで財政的に苦しい自治体にとって大きな魅力となっています。

お礼品のベストテンを見ると全て地元特産品でお肉が圧倒的です。

そんな風潮の中、芦屋市シルバー人材センターが提案し芦屋市が提唱する「傾聴&見守りサービス」や「お墓の清掃代行」は特異なお礼として全国的に話題となりマスコミに取り上げられました。

転勤や仕事の都合で故郷を離れて暮らさなければならぬ人々にとって、年老いた親の介護やご先祖の墓を守っていくことは精神的にも経済的にも大きな負担です。

一時的に芦屋をはなれた人も、もう芦屋に帰る事の無い人にとってもそんな悩みを引き受けてくれるのが、芦屋市シルバー人材セ

ンターが提案し実行する「傾聴&見守りサービス」や「お墓の清掃代行」です。

※傾聴&見守りサービス
申込方法はインターネット・寄附申込書によります。

芦屋市市民生活部経済課
Tel 0797・38・2033
Fax 0797・38・2176
実施日は別途ご相談ください

○ 芦屋でお一人暮らしのご高齢の方を訪問し心に寄り添いお話を聴きます。

○ 病院・介護施設へ入院・入所されている方を訪問しご家族に代わりお話を聴きます。
傾聴サービスは寄附額よって時間や回数が変わります。
(詳細はお問い合わせください)

※お墓の清掃代行概要(募集)
遠方にお住まい等でお墓の掃除が出来ない方に「清掃」「献花」「献香」を心を込めてお手伝いします。

申込金額3万円から
申込には事前相談が必要。
芦屋市霊園6mまでのお墓が対象
お盆、お彼岸、年末年始は対象外
お申し込み前に
(Tel 0797・38・3105)

・市の職員が現地を確認します。
・確認後市環境課より可否を連絡
・清掃終了後報告書(写真)を送付

A-19 ■ 芦屋市霊園 お墓のお掃除・献花サービス

※お申し込みには、事前相談が必要です。(芦屋市環境課電話係:0797-38-3105)
※芦屋市霊園で、6mまでのお墓が対象です。
※お盆、お彼岸、年末年始は受付対象外です。
遠方にお住まいなどお墓の掃除などができない方のために、「清掃」「献花」「献香」を心を込めてお手伝いいたします。

芦屋市霊園お墓のお掃除・献花サービス
■ 芦屋市シルバー人材センター
0797-32-1414





A-20 ■ 傾聴&見守りサービス
芦屋でお一人暮らしのご高齢の方等を訪問し、心に寄り添いお話を聴きます。
病院・介護施設へ入院・入所されている方を訪問し、ご家族に代わり、お話を聴きます。
※お受けできる条件がありますので納付前にご相談ください。
訪問2回(合計2時間、1.0時間/回)
■ 芦屋市シルバー人材センター
0797-32-1414

設立30周年記念事業 実行委員会発動

平成29年度は当センターが設立30周年を迎えます。

その記念事業に携わる委員を事務局だよりで公募し、27名が実行委員として委嘱され、昨年11月に実行委員会が設置されました。

委員長に理事長が就任され、3つの部会が立ち上がりました。記念事業の予算に関すること等と、記念式典に関すること等を行う「総務・式典部会」、記念式典を除く記念事業の計画及び実施に関すること等を行う「記念事業部会」、広報に関すること、記念誌に関することを行う「広報・記念誌部会」です。

各部会では記念式典を初め、一年間を通じて行う様々な行事について協議し進められています。会員皆で協力・参加して盛り立て楽しみましょう。

取材 加古 良子

芦屋市シルバー人材セ

「あしやトライあんぐる」 ケーブルテレビで紹介



9月初めから中旬にかけて、「芦屋市広報番組(あしやトライあんぐる)」がケーブルテレビで「芦屋市シルバー人材センター」の

取組みについて放映されました。

最初に事務局の今井さんからの紹介、続いて「子育て支援」まつぼっくり、「たのしい放課後教室」介護予防講座の「健康表現体操」「健康コミュニケーション麻雀」「みんなで歌おう」そして介護予防応援事業の「はつらつ憩サロン」等の様子を取り上げて頂きました。

「働く」「学ぶ」「楽しむ」「奉仕する」の4拍子揃った当センター。まさに、一目見るだけで我「芦屋市シルバー人材センター」の魅力が分かり易い番組となっていました。



女性の会「芦やん小町」

チャリティーバザー開催



7月23日(土)「はつらつ館」西側駐車場・1階作業室にて女性の会主催チャリティーバザーを開催しました。会員の皆様からご寄付いただいた沢山の品物に「高すぎる? いやもっと価値があるのでは?」などとワイワイ言いながら値札付け、価格は低めに、少しでも沢山買っていた

だきたいとの思いからです。

当日10時オープンでしたがその前よりお客様がお越しくださり、「始めます」との声と同時に「んてこ舞いが始まりました。15分程で多くの品物が売れ、嬉しい驚きでした。その後途切れる事なく、会員の方やご近所の方、自動車を通りかかったからなどと100名様程ご来場くださいました。

初めての開催で品物が集まる? お客様来て下さる? と心配しましたが、売上げ50,528円、目標を達成することができました。全額、芦屋市社会福祉協議会を通じて熊本地震被災地への支援金として寄付いたしました。使わない物が役立つた楽しい一日でした。ご協力いただきありがとうございました。

第3回「女性の集い」開催
1月21日(土)午後1時より
市民センター 301,302号



女性の会
加古 良子

秘訣!!

一環として「健康・生活アンケート」が実施され、その分析
りました。

ると思いますが、ここで申し上げたいのは、すべての年齢段
高齢者よりもセンター会員の活動能力が高いことが確認され
特に後期高齢期（75歳以降）で際立っていたこと。

たが今回は“元気の秘訣”とタイトルを変更し、お二人の



取材 北川知可子

エルホームでの刃物砥ぎ
の日、メンバーの一人であ
る梁瀬さんを取材させて頂
きました。
月並みな質問ですが、梁瀬
さんの健康法は？とお訊ね
すると、開口一番「好奇心」
とおっしゃった。大工仕事が
好きで、廃材を見つけては、
何を作ろうかと、あれこれ考
えるのが楽しみだと。
就業中のメンバーが使用
されている砥ぎ台、腰掛け
は勿論、梁瀬さんの手作り。

横で仕事をされていたメン
バーの一人が、この人、
神輿も作りはるよ。とおっ
しゃつたのには、びっくりし
ました。
他に心がけておられるこ
と、ラジオ体操は続けて13
年、読書、毎朝新聞も欠か
さず読みます。なかなかお
話好きとお見受けする。話
は戦前の話にも及び、物の
ない時代を過した経験が現
在も息づいていて、取材す
る私も同年なので話が尽き



やなせ
梁瀬

純一さん 83歳

(会員番号 2727)



刃物砥ぎ班の研修風景

ません。平和について、天
皇について、次々に話題が
広がります。
最近、体調はと話を向け
ますと、「今は少し耳が遠く
なつたかな」いやいや、とて
もエネルギーが少なくていらつ
しゃる。最後に趣味は？「恥
をかくこと」。分からない
事は何でも人に聞くことや
なアと答えられました。

元気の



「生きがい就業の介護予防効果に関する共同研究事業」の結果、シルバー会員と芦屋市一般高齢者との比較が話題になりました。詳細については概に配布された資料をお読みいただいでい階で全員の平均得点は、全国平均より男女ともに高く、一般ました。13点満点で10点以上の会員が97%であったこと。「はつらつ芦屋」で毎号“健康の秘訣”を掲載してきまし後期高齢者に登場していただきました。

すぎた
枚田

瀬津子さん 78歳

(会員番号 851)



お話を伺う中で、病名が3つもあがった。えっ？それ書いてもいいの？と「いいですよ」と淡々とおっしゃる。シルバーでの就業は、家事援助、公園の清掃、リフォーム（写真下）。編み物同好会にも参加。以前、副理事を1期、理事を4期務められたりと、細身の体のどこにそのようなエネルギーがと不思議です。

その元気の源は、50歳になった時、これを期に何かやろうと始めたのが、スキューバダイビング。続けるうちにハマってしまつて、海外へも出かけるようになりました。エジプト、ペルー、オーストラリア、アメリカ、台湾、フィリピン等々。その土地の動植物に触れること、要するにこの方も好奇心旺盛。どうも元気の秘訣は、その行動力にあるとお見受けした。



和洋服のリフォーム

持病とは、C型肝炎、糖尿病、自律神経失調症。自己管理を徹底し、無理はしない。

クヨクヨしない。心の持ちようねと。「あと2年生きられればと思っているの」とさりげなくおっしゃったのが印象的でした。

私の感想を申し上げますと、枚田さんは、とても洒落、個性的です。それも健康のバロメーターだと思っております。

芦屋の🎯が好き

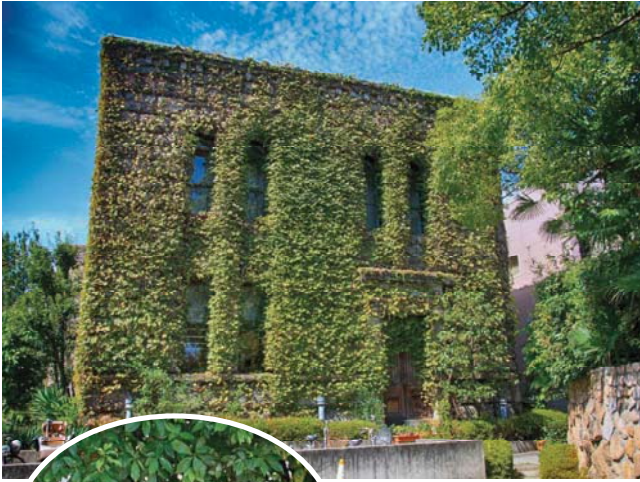
芦屋市立図書館 打出分室

(打出教育文化センター)

佐々木 廣明

(会員番号 982)

阪神電車打出駅より北へ約2分
打出天神社西側に古い石造りの図
書館があります。鉄筋コンクリー
ト二階建の外装に花崗岩を積み重
ねた蔦のからまるレトロな建物で
す。四季に応じ色彩の変化も楽し
めます。仏教美術コレクションの松
山与兵衛氏が大阪より明治時代の
洋館を昭和初期に移設されたとの
ことです。



館内に入ると明る
いロビーからは美し
い日本庭園が望めま
す。手前の中池で泳
ぎ回る錦鯉を見てい
ると心が癒されます。

図書館を
利用され
る人達の
憩いの場
としても
利用され
ています。

芦屋浜 総合公園

久我 和子

(会員番号 2251)

久しぶりにスケッチブックを持ち、秋空の下を自転車で行
きました。目的地は潮風大橋を渡り切った所の芦屋浜総合公園
です。

夏の間咲いていたひまわりの花は茶色の種をぎっしり詰めて
今にも秋風に揺られて、飛んで行ってしまいそうです。よく見れ
ば、ひまわりの花が二輪、小さな花をつけています。

ラベンダーの花の間を黄
色の蝶が、忙しそうに舞っ
ていました。何処からとも
なく鳥のさえずりも聞えて
きます。今日のスケッチは
先ほどのひまわり畑の前で
する事にしました。



似顔絵



大隅良典さん



草間彌生さん



ドナルド・トランプさん

澤田邦洋 (会員番号 20008)

細胞生理学の分野で、細胞が不要なたんぱく質を分解して再利用する「オートファジー」の仕組みを解明し、オートファジー(自食作用)に欠かせない遺伝子も次々と発見した大隅良典さん。16年ノベル医学生理学賞を受賞され、又09年朝日賞、16年文化勲章が贈られました。

前衛芸術家で、水玉や網目模様で覆われた絵画や彫刻で知られる表現と、独創的な作品を数々発表する草間彌生さん。01年朝日賞、03年仏芸術文化勲章オリス賞、16年文化勲章が贈られました。

過激な発言で米国内政の既成政治への不満や怒りを北米界に支持を集め米大統領に当選したドナルド・トランプさん。

超大国の指導者としての手腕は未知数ですが、TPPや日米関係などの行方も不透明感が増すばかりです。

ペットご披露



猫嫌いとうと黒



猫が苦手と先刻承知の娘が、段ボールに2匹の子猫を連れてきた。「目を開けてやって」と懇願する。仕方なく体を洗い、目やにだらけの目をきれいにしてびっくり驚天。片目の子と両目が真白な子ではないか。まさか、この年で産んだ覚えもない猫の子の母になるなんて…、と思いつつもわかりやすく白オスと黒(メス)と名付け娘と2人悪戦苦闘しながら育てた。猫嫌いの私がふたたびびっくりする出来事が起こった。

ようにつかまるは。「ホレ。これやからイヤや言ったでしょ。壁も襖もボロボロになるらしいよ。」と娘にボヤク私の声に白は飛び降りた。それから白は、黒の躰を厳しくやり出した。おかげで壁も襖も無傷なのだがあまりの厳しさに黒は家出をしてしまった。とても賢かった黒は、メスながら近所のノラ猫のボスとして猫会議を仕切りながら、我家の様子を伺っていたが、二度と帰ることなく、冬の寒い日あるご近所の庭で2年足らずの生涯を終えた。悲しい思いをしたのは人間の方だった。

3度目のびっくりは、白が目覚まし時計として毎朝活躍をはじめた事だ。いつの間にか白の正確さに全幅の信頼をおいていた家中がある朝、パツクになった。彼が30分余り遅れたのだ。体内時計が狂ったのかなが、すぐ復活し今も健在で時を刻んでいる。16年の間に俊敏だった子猫が、コンコンとゆっくり階段を降りるようになった。いつの間に私の年を追い越したのだろうか。今も日なたぼつこの横には白がいる。

大内 孝子
(会員番号 1352)

ワーク・ア・ラ・カルト

家事援助サービス

早いもので会員になって丸13年が過ぎました。最初のお仕事は施設入所されている90歳女性の方の昼と夕方のお食事介助でした。2人で組んで、一日置きに通いました。会話も沢山交わしました。気持ちのふれあいを大切にしたいと思っっているのは今も同じです。

次に留守宅の生

活援助のお仕事を頂き、初日事務局の方と一緒に訪問して、先方の奥様にお会いしました。その日の帰りに「では、よろしくお願ひします」と鍵を受け取った時は、驚きと同時に身が引き締まりました。大事なご自宅の鍵を初めて会ったシルバー会員に預ける時の奥様のお気持ちを思うと、責任感が湧いてきました。正直に真面目に自分の出来る限りことを精一杯させて頂こうと決心しました。

それから11年目を迎え、変わったことは私の体力が落ちたことです。今は3人のお仲間と一緒に4

人でお仕事を分担しています。週3回を1日2人で。その分時間も短くして頂きました。それぞれの都合の悪い日は融通し合って誰かがカバーしてくれれます。

結婚後、姑が亡くなるまでの30年間は子育てと介護の毎日です。外もままならなかった時期がありました。今はシルバーの会員になりました。今後は色々な方々に出会うことが出来る心から感謝しています。これからも自分の身の丈に合ったお仕事で心や体をほぐし、健康を保って行けたらと願っています。

安村 千鶴子

(会員番号932)



居酒屋

芦屋 小太郎



芦屋のグルメ

お店のオーナーさんに尋ねると、開店して5年になる。

誰もが親しめる名前だ。丼物、海鮮料理、夜は居酒屋だ。

入口には花が活けられ、ランチ時は満席になる。(予約可能)

カウンタに5席、テーブル席は5つに仕切られている。

夏の終わりに取材した時の日替わり御膳は、おばんざいと、海苔を使つての黒茶碗蒸し。デザートは別料金(280円)で、

自家製の柚子の香りがする寒天が疲れを一気に吹き飛ばしてくれた。

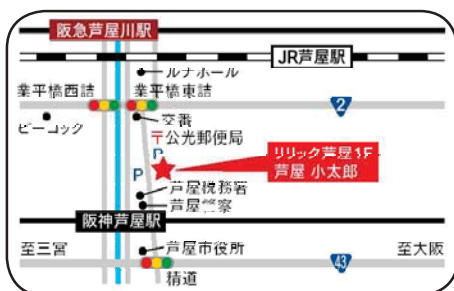
取材 久我 和子



日替わり御膳
1,150円



海鮮丼
950円



芦屋市公光町4-20リリック芦屋1F
☎ 0797-34-1299
営業時間 11:30~14:00
17:00~22:30(L.O.22:00)
定休日 火曜日 P2台

紀行 ☆ 寄稿 ☆ 奇行 ?

ハイクレア城

イギリスのテレビドラマ「ダウントン・アビー」二十世紀初めのイギリスの貴族とその館に住む使用人達の物語である。

イギリス、ニューブリーに住む友人の家で夜テレビを見ながら

「日本ではダウントン・アビーが日本語で見られるの

よ」と言うと、

「ミツコがいる間にこのドラマが撮影されたハイクレア城を訪れよう。すぐ近くだから、ネットで公開日を調べてみるわ」

「五月は二十三と二十四日ね、次は八月よ」ラッキーなことに二十三日は陽がさし明るい日だった。

友人はすぐ近くと言うけれど、車で三十分以上深い森の中を走っても門も城も見えない。道を間違えたのかと不安になるが、車の渋滞になり、この先が城に

続く道だと分かる。

朝九時半を過ぎたばかりなのにすでに数百台の車が広場に集まっていた。

緩やかな丘の広い敷地は緑々した芝生が何処までも広がり、雑草一本生えていない。

入場料シニア料金九ポンド（1300円）を支払い館への道に到着するが、まだ建物までは遠い。丘の向こうに、ロンドンの国会議事堂と同じような塔のある建物が見えた。ハイクレア城だ。建物の起源は八世紀に遡り何度も改修、修復され、第一次大戦の時は軍の病院として使われていたとか。

六代カーナボン卿はエジプトに滞在しツタンカーメンの墓を発掘した人として知られている。

現在、館には八代カーナボン伯爵夫妻が住み管理している。広い領地、古い建物の維持には莫大な費用が掛るだろう。

テレビで映っていたリビングやダイニングルーム、客間、書斎、寝室、絨毯、絵画などの本物を見る。全てが豪華で見学者達はため息をつくばかり。

別棟に用意されたお土産店に入ると、伯爵夫人、レディ・

カーナボンが普段着姿で客達とおしゃべりをされている。気づいたところが少しもなく、記念の写真にも一緒に加わってくれる。時どきエリザベス女王はじめ皇室の方がお茶に来られるとか。

次はシークレット・ガーデンと名付けられた庭を散歩。鹿やキツネ、野兔が住む森に囲まれた庭、温室があり、バラ園にはピンク、黄色、赤、白、オレンジ色の花が咲き誇っている。

トリミングされた木のアーチをくぐり抜けると、色とりどりの花が迎えてくれた。藤の花が満開でアジサイ、ラベンダーが花を付け始めていた。

二時間では廻りきれない広い花壇。狩りをする森、多くの羊も敷地内で飼われている。

城の他にレンガ造りのヘブンズ・ゲイトやテンプル（寺院）と称されるコリント様式の柱のある建物があり、何処からも雄大な庭が見渡せる。



「Lady Catherine & The Real Downton Abbey」や「Egypt at Highclere」の著者であるレディ・カーナボンは毎朝愛馬に乗って庭を駆けるのも仕事のひとつだと聞いた。

イギリスには歴史の本や小説でしか知らなかった上流階級の人達が今も古き良き時代の生活をしているのだ。

坪内美津子
(会員番号1082)

夢千代の里湯村温泉と猿尾滝

盛況だった秋の研修旅行

待ちに待った秋の研修旅行。企画が良かったのか3日ほどで募集定員をオーバーしキャンセル待ちが出るほどの人気ぶりでした。写真でもお分かりいただけると思いますが、昼食場所の湯村温泉「井づつ屋」の大広間を埋め尽くす会員。壮観の一言。毎回、行き先や宴会の準備をされる会員活動委員会の皆様のご苦勞に感謝します。今回は、片山さん、初参加の山岡さん、井上さんに感想をお聞きました。



平成28年
11月22日、後
期会員研修バ
スツアーに参
加させていた
できました。

朝8時芦屋市長、事務局員の方々



井づつ屋での食事風景



流れも優美な猿尾滝

に見送られて、元気な会員を乗せ
たバスは暖かい天候にも恵まれて
山陰路へ快適に出発致しました。
車中の研修では各シルバー人材
センターの活動状況等がビデオで
報告されました。私たちセンター
の活動と照らし合わせながら興味
深く見させて頂きました。行程
の、道の
駅まほろ
ばはお目
当ての岩
津ねぎが
解禁前で
ちよっと
残念、次
の猿尾滝
は「枯れ
落ち葉湿

りておりし猿尾滝」と言った感じ
で名所の紅葉は終つてしまいました
が、高さ60メートルから落下する
水の造形は美景でした。

湯村温泉では井づつ屋の美味し
い昼食をいただいた後、カラオケ
入浴。荒湯散策と各々楽しみまし
た。美しい景色を見て、美味しい食
事を頂いて、たくさんの方員さん
ともお話出来て楽しい一日でした。
会員活動委員の皆様、計画から
当日のお世話までいろいろと大変
だったと思います。ありがとうございました。

片山シツ子（会員番号953）

吉永小百合がモデルの夢千代像



◆会員相互の交流を



シルバ
ー会員となっ
てから3年
目で、初めて
研修バスツ
アーに参加させていただきました。
いつもの仕事仲間だけでなく、

異なる分野で活躍されているメン
バーとともに、楽しい一日を過ご
すことができました。

今後もできるだけ参加して、英
気を養い、会員相互の交流を図り
たいと思います。
お世話いただきました、方々に
謝意を表します。

山岡 正（会員番号2428）

◆ひとりでの初参加

でも楽しかった！



11月22日、
絶好の旅行
日和、芦屋市
シルバー人
材センター

事務所前を山中市長のお見送り
のもと、バス2台で山陰への旅へ、
猿尾滝でマイナスイオンをいっ
ぱい浴びて湯村温泉へ。井づつ
屋旅館の昼食で満腹、足湯とあら
湯の茹で卵作りを体験、夢千代日
記像辺りを散策、初参加の私一人
でも会員相互の親睦があり、健康
寿命をのばせる楽しい研修旅行
でした。

役員様お世話有り難うござ
いました。

井上 正子（会員番号2772）

Wimbledon (ウィンブルドン2014年)

幸運にもインターネットで応募した観戦チケットが当選、急遽観戦に出かけることにした。この時期ロンドンは雨が降りやすいので、2日間をテニス観戦にあてた。ウィンブルドンは通称「全英オープン」と呼ばれ会場は地下鉄「サウスファイールド駅」を出て徒歩約15分のところ。6月後半ロンドンはお花がいろいろ、清々しい気候。1日目はチケットがないので朝9時頃から並んだ。待機場所はクリケットグラウンドで2万人は入りそう、整理券の番号が1万番台だった。待ち時間が長いので、殆どの人は草の上に座ったり寝転んだりしている。隣にいた高齢の夫婦に話しかけてみたら気軽に応じてくれた。以前「関学」で英語の教師をしていたらしく、神戸のことも詳しい。片言英語が通じたかどうか結構話が弾み、香港から来た女性も加わり、いろいろ文化交流ができた。

チケツト売り場が見えたのは午後1時、約4時間待ち、疲れた。会場はお祭り騒ぎである。日本選手の試合をチエックした。「錦織圭」は翌日で、クルム伊達は試合が終わっており見ることが出来なかった。2日目は当選券(No2コート)があるので、10時ごろに専用ゲートへ行くとVIP扱いでチケットをくれた。待つことなくすんなり観戦。「フェレーロ」、「ツォンガ」、「伊達」のダブルスを観戦、有名な「いちごミルク」も2杯食べた。夜10時ごろでも明るいので試合も遅くまである。日本人観戦客も大勢きており、あちこちで日本語が飛び交っている。テニスの日以外は観光に当て、今回は「ウィンザー城」、「ハンプトンコート宮殿」と市内観光「ビッグベン、ケンジントン宮殿」他、また、日本で予約した「コッツウォルズ」と「オリエント急行」のツアーにも参加。「オリエント急行」では指定以外の車両へも移動できたので、いろんな人に話しかけた。日本人には好感を持っているようで、歓迎してくれた。我々以外VIPな人ばかりに見えた。個人旅行なので時間制限はない。のんびり出来たが道に迷ったり、電車の乗り違いなどあったが何とか目的地へは行けた。移動は地下鉄が殆ど、郊外電車、バスも利用したが15年前と違って「I-COCA」風のカードが使えとても便利。でもイギリスの食べ物「まずい」が印象でした(ポテト&チップス風ばかり)。宿泊したホテルは小さく、狭く、インド人経営、食事はまあまあ。

この年の夏「錦織圭」は全米オープンで「ジョコビッチ」を破り決勝に進出したが、「マリリン・チリッチ」に敗れ優勝を逃した。

梶原 健司 (会員番号1907)



プラットフォームはテニスコート



チケット待ちの列



オリエント急行



ハンプトン宮殿



コッツウォルズ

編集後記

明けましておめでとうござい
ます。

多くの感動を与えた、オリンピックイヤーも終わり、2020年の東京オリンピック、そしてパリオリンピックへ始動の年がスタートしました。

私達のシルバー人材センターも、2017年には設立30周年の節目を迎え、60歳からのセカンド・ステージ」として「さらなる飛躍」にむかっている年となります。

20周年記念誌「会員の声」で「人は人との関わりの中で生かされている」と投稿しましたが、シルバーの基本理念である「自主・自立・共働・共助」に「共生」を加え、会員がお互いに支え合える「ステージ」の年としたいものです。

武田信玄の「人は石垣、人は城」という言葉があります。「人」の力がなければ「城」があっても役に立たない、とのことですが、会報誌「はつらつ芦屋」も会員の皆様に支えられて今回もお届けすることが出来ました。

30周年に向け広報委員会として例年の活動に加え関わる事がより多くなると思われます。本年もよろしくお願い申し上げます。

鈴木 一生

はつらつギャラリー

「はつらつ憩サロン」に「絵手紙」の講座がありました。

2回で21の方が受講され2時間の講義が終わる頃には立派に絵手紙が描けるようになりました。

この講師には絵画クラブ「オリーブ」のメンバーが指導しました。

授業の見本として使いました「オリーブ」会員の作品を掲載させていただきます。



中西 巧
会員番号 1198



上野邦彦
会員番号 2717



上山清子
会員番号 1152



櫻井由紀子
会員番号 2032



中村智恵子
会員番号 2746



澤田邦洋
会員番号 2008



北條時雄
会員番号 1194



前田 穰
会員番号 1488



瓦谷隆一
会員番号 2021



森 信行
会員番号 2241



安木貴美代
会員番号 1464



橋田町子
会員番号 2029



鬼塚千代美
会員番号 2367